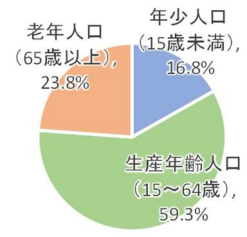


	世帯数	人口	年齢別人口
現在	503 世帯	1,212 人	15歳未満 (年少人口) 206 人
			15~64歳 (生産年齢人口) 727 人
			65歳以上 (老年人口) 292 人
約50年前	215 世帯	837 人	



地名は、北条街道と生野街道が交わる辻に位置すること由来すると、田原川と市川が合流する川の辻の意とも言われています。室町時代の地誌『峯相記』には、正暦2年(991)に慶芳上人が「田原ノ庄有井村」に一宿したことが記され、中世は有井村とも呼ばれました。古代律令制では播磨国神前郡川辺里、中世は田原荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長5年(1600)からは姫路藩領となり、大庄屋組は辻川組に属しました。元文2年(1737)の辻川村明細帳によると、家数は44軒・人数は201人でした。明治9年(1876)に西田原村の一部となりました。

辻川は、東西・南北の街道が交差する交通の要衝であり、この界限には辻川組の大庄屋・三木家、そして近代には、神東神西郡役所(神崎郡役所)や辻川郵便局などが置かれて、地域の政治的な中心地として発展してきました。このような中、江戸時代以来の大庄屋三木家を中心とした地域知識人グループが形成されて豊かな学芸の風が育まれ、日本民俗学の父・柳田國男をはじめとする松岡五兄弟など、各分野で活躍する人材が輩出されました。柳田國男の著書『故郷七十年』では、幼少の頃過ごした辻川界限の様子が語られています。



※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和4年5月末時点、10年間の人口・世帯数の推移は各年5月末時点、約50年前の人口・世帯数は昭和52年6月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
建築物	1	旧辻川郵便局	大正 12 年頃 (1923)	三木拙二が建てた郵便局。現在の福崎郵便局の前身。建築面積 91 m <sup>2</sup> 、木造 2 階建、寄棟造棧瓦葺である。1 階玄関ポーチの庇に渦紋を象り、「卍」をモチーフとした意匠で天井を飾る。平成 31 年 (2019) に三木家住宅の西隣から現在地に移築された。 【国登録有形文化財】 【兵庫県指定景観形成重要建造物】		●					●	
	2	三木家住宅	—	三木家は代々姫路藩の大庄屋を務め、地域に貢献することが大きく、屋敷も一揆によって焼き払われることなく今日に至る。三木家住宅は姫路藩の大庄屋の屋敷構えを知る上で貴重である。平成 22 年度から保存修理工事に着手し、平成 29 年度から主屋部分を三木家や地域の歴史を紹介する展示施設として公開している。 【県指定有形文化財】	●	●					●	
	3	旧神崎郡役所(福崎町立神崎郡歴史民俗資料館)	明治 19 年 (1886)	神東・神西郡役所(後に神崎郡役所と改称)として建てられた建物。昭和 57 年(1982)、現在地に移築・復元し、資料館として開館した。ギリシャ建築様式を取り入れた二段式の玄関や手作りの階段手すり、元郡長室の暖炉など、文化財的にもすぐれた明治建築である。 【県指定有形文化財】	●	●						●
	4	柳田國男生家	—	柳田國男の生家。辻川のまちなかから辻川山の山腹に移築され、公開されている。間口 5 間、奥行き 4 間の四間取(田の字型)の民家である。國男は「私の家は日本一小さい家だ。この家の小ささという運命から、私の民俗学への志を発したとあってよい」と記している。 【県指定有形民俗文化財】 【兵庫県指定景観形成重要建造物】	●	●						●
石造物	5	阿弥陀如来坐像(鈴の森神社横)	応永元年 (1394)	阿弥陀如来坐像。正面には由来が記されている。						●		
	6	地藏菩薩坐像(地藏堂)	元文 2 年 (1737)	地藏菩薩の石仏。台座正面には造立年月日・施主等とともに「奉刻彫尊像一軀」と記されている。像高約 49 cm、右手に錫杖、左手に宝珠を持つ。						●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	7	名号塔（地藏堂横）	文政 8 年 (1825)	石碑。正面には「南無阿弥陀仏 □ □是弥陀仏 一声称念罪皆除」と記されている。				●		
	8	石鳥居（鈴の森神社）	明治 41 年 (1908)	石鳥居。右柱正面には「奉」、背面には造立年月等、左柱正面には「納」、背面には施主が記されている。				●		
	9	石灯笼（鈴の森神社）	文政 2 年 (1819)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「御神灯」、各側面にそれぞれ造立年月日と願主が記されている。右側は事故で破損したため新設されている（銘は文政 2 年のまま）。				●		
	10	石灯笼（鈴の森神社）	明治 23 年 (1890)	左右一対の石灯笼。左右ともに正面に「奉納」、右に造立年月が記されている。左灯笼の基壇に世話人や石工が記されている。				●		
	11	石灯笼（鈴の森神社境内社恵美酒神社）	大正 4 年 (1915)	左右一対の石灯笼。右灯笼の正面に「献」、右に造立年月、左灯笼の正面に「灯」、左に「本鈴木」と記されている。				●		
	12	石灯笼（高藤稲荷）	不明	石灯笼。台石の右に「周施方」として 10 名の名が記されている。				●		
	13	手水石（鈴の森神社）	文化 7 年 (1810)	手水石。正面に「奉納」、背面に造立年月日・願主が記されている。				●		
	14	狛犬（鈴の森神社）	昭和 8 年 (1933)	石造の狛犬。				●		
	15	狛犬（鈴の森神社）	文久 3 年 (1863)	石造の狛犬。				●		
	16	玉垣（鈴の森神社）	大正 2～3 年 (1913～1914)	左右一対の玉垣。右は「奉 松岡鼎」、左は「納 柳田國男」と記されている。	●			●		
	17	玉垣（鈴の森神社）	大正 2～3 年 (1913～1914)	左右一対の玉垣。右は「奉 勲四等内藤利八」と記されていたが、破損のため「奉 辻川氏子中」の銘で新設。左は「納 勲四等内藤利八」と記されている。				●	●	
	18	玉垣（鈴の森神社）	大正 2～3 年 (1913～1914)	玉垣。「伏見町 増田組 辻川出張所」と記されている。		●		●		
	19	玉垣（鈴の森神社）	大正 2～3 年 (1913～1914)	玉垣。「増田組 出張所 主任横光利顕」と記されている。		●		●		
20	花筒（高藤稲荷）	不明	花筒（花立）。正面に「奉納」、右に「福崎新村 二十五才 申年女」と記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物	石造物	21	井筒（鈴の森神社）	不明	井筒。正面に「奉納」、背面に4名の名が記されている。				●		
		22	振武館建設跡地の碑	明治40年（1907）	砲車の形をした石碑。正面には「振武館建設跡地」と記されている。						●
		23	拝殿改築・玉垣新築記念碑（鈴の森神社）	大正9年（1920）	拝殿改築・玉垣新築を記念して建てられた石碑。				●		
		24	柳田国男歌碑（柳田国男・松岡家記念館横）	昭和50年（1975）	柳田国男誕生百年記念として建てられた文学碑。正面には「国男をさな名を人二呼ばるゝふるさとハ昔にかへるこゝちこそすれ」と記されている。	●			●		
		25	伝山崎群集墳出土石棺	古墳時代	組合式家形石棺。伝山崎群集墳出土と伝わる。				●	●	
		26	田原村道路元標	大正11年（1922）	正面には「田原村道路元標」と記されている。西田原村西1233地先に置かれたもので、大きさは内務省令の規定のとおり幅25×奥行25×高さ60cmである。						●
		27	八千種村道路元標	大正時代	正面には「八千種村道路元標」と記されている。八千種村道路元標は八千種前垣内2303-1地先に置かれたが、現在は道路工事に伴い歴史民俗資料館で保存・公開されている。大きさは内務省令の規定のとおり幅25×奥行25×高さ60cmである。						●
		28	裁縫師匠墓碑（薬師山墓地）	明治42年（1909）	裁縫師匠の墓碑。正面には「□岳高□居士 宝室妙□大姉 位」と記されている。辻川薬師山霊園入口前に位置する。	●			●		
		29	栄楽先生墓碑	明治26年（1893）	墓碑。正面には「栄楽先生霊」と記されている。松岡家の墓地に碑のみ移設されている。	●			●		
建造物	その他の構造物	30	巖橋	明治9年（1876）	明治時代初期の馬車道建設の際、木橋から石橋となる。全長5.6m、幅5.1mで、勾欄石に「巖橋」と記されている。河川改修に伴い、辻川山公園内に移設された。		●			●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
美術工芸品 絵画	31	常盤御前図(鈴の森神社)	天保10年(1839)	画家は「董永」、奉納者は「当処氏子中」とある。115×141.5 cm。	●			●		
	32	仮名手本忠臣蔵図(鈴の森神社)	文久4年(1864)	奉納者は「井ノ口郵繁内3名」とある。12場面。117.5×194.5 cm。辻川公民館にて保管し、鈴の森神社にはレプリカを掲げている。	●			●		
	33	相撲番付額(鈴の森神社)	大正10年(1921)	奉納者は不明。地方世話人として9名の名がある。80×56 cm。	●			●		
	34	相撲番付額(鈴の森神社)	大正12年(1923)	奉納者は不明。5月下旬晴天1日興行仕候。89×78 cm。	●			●		
	35	十二支図(鶏)(鈴の森神社)	昭和2年(1927)	奉納者は「酉43才女」とある。夫婦鶏。29.5×36.5 cm。	●			●		
	36	玄徳渡檀溪図(鈴の森神社)	不明	奉納者は不明。画家は望旭軒玉兎。86×105 cm。	●			●		
	37	十二支図(鶏)(鈴の森神社)	不明	奉納者は「松岡源之助」とある。夫婦鶏・麦稈製・はり絵。44×49.5 cm。辻川公民館にて保管している。	●			●		
	38	十二支図(猿)(鈴の森神社)	明治33年(1900)	画家は「竹堂正人」、奉納者は「願主三木鑑之助」とある。78.5×57 cm。	●			●		
	39	写真額(鈴の森神社)	大正7年(1918)	奉納者は「伊藤幸次」とある。米国提供船乗蘭蘭丸武装之景。23×29.5 cm。	●			●		
	40	女舞図(鈴の森神社)	明治27年(1894)	奉納者は「三木智磨」とある。布製。42×31 cm。	●			●		
	41	竜図(鈴の森神社)	不明	奉納者は不明。59.5×44 cm。	●			●		
	42	虎図(鈴の森神社)	明治34年(1901)	奉納者は「鈴木志磨」とある。布製。106.5×80.5 cm。	●			●		
	43	銭額(鈴の森神社)	大正9年(1920)	奉納者は「本年11才 鈴木寿栄子」とある。64.5×48.5 cm。	●			●		
	44	童児老女を負う図(鈴の森神社)	天保3年(1832)	望旭軒玉兎62才画。奉納者は「陽吉」とある。	●			●		
彫刻	45	大日如来坐像(山口堂)	寛文元年(1661)	鈴の森神社の本尊として祀られてきたが、鈴の森神社社殿が建立された文久2年(1862)に薬師堂に移された。明治40年(1907)に山之口大明神が薬師堂に合祀され、薬師堂は俗称「山口堂」と呼ばれるようになった。山口堂の本尊の薬師如来とともに祀られている。				●		
	46	薬師如来坐像(有井堂)	14世紀	有井堂の本尊、薬師如来坐像。有井堂は、辻川の老女の仲間が縁日に集まって、経文を唱えたり、会食したりするのに使用されてきた。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり					
					①	②	③	④	⑤	⑥
書跡・典籍・古文書・歴史資料	47	上井文書	—	80 件、242 点。所蔵者は(仮称)上井郷組 (※田尻と辻川が交替で保管。正式な名称なし。)		●				
	48	辻川区有文書	—	81 件、81 点。		●				
	49	三木家文書	—	昭和 59 年(1984)から平成 9 年(1997)の 5 次にわたる調査で、計 6,882 点を把握している。三木家の学芸の風を培養するとともに、柳田國男を育む基となった資料群でもある。	●	●				
	50	鈴の森神社上棟行事および収支明細帳	大正 9 年(1920)	辻川区有文書。大正 9 年(1920) 10 月 15 日から 19 日までの 5 日間、上棟式として、田原村内の村々や福崎新村、山崎村などを含めた 13 ヶ村の屋台及び造り物による盛大な祝儀が執り行われたことが記されている。				●		
	51	鈴の森神社建立棟札	文久 2 年(1862)	鈴の森神社蔵。				●		
	52	鈴森神社拝殿建立棟札	大正 3 年(1914)	鈴の森神社蔵。				●		
考古資料	53	壺棺(A)	弥生時代	朝谷遺跡で発見されたもので、残存高約 47 cm、低部径約 6.6 cm、胴部最大径約 53 cm。本来は口の部分がかったが棺として利用する際に壊している。蓋に用いられている土器は本来は鉢であるが蓋として利用している。口径 26 cm、高さ 12 cm。弥生時代後期のものと考えられている。 【町指定文化財】		●				
	54	壺棺(B)[合蓋土器]	弥生時代	西田原宮山遺跡で発見された甕形土器を棺に利用したもの。高さ約 50 cm、口縁部は直径約 31 cm、短経約 28 cmの不正円形。高さ約 20 cm、口径約 34 cm、底部径約 14 cmを計る鉢を蓋に利用している。甕棺は神崎郡内では他に出土例がなく、地域の歴史を知ることができる貴重な遺物である。 【町指定文化財】		●				
無形文化財	音楽等	55	手まりつき唄	大正時代初期	大正初期頃の毬つき唄。 ※『かたりべ 第2集』35 頁		●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
有形の民俗文化財	祭具	56	屋台 (辻川区)	—	布団屋根型屋台。					
	民具	57	つるべ	—	農地の下に埋もれていた井戸の井戸さらえをした際に出土したつるべ。木製で少し焼けこげていたことから、一揆の痕跡と考えられたが、後に、一揆では放火がされなかったことが分かり、別の機会についてものと考えられている。高さ 20 cm、上部の幅 21 cm、奥行き 21.5 cm、底部の幅 15.5 cm、奥行 15.5 cmをはかる。 【町指定有形文化財】					
	その他の有形の民俗文化財	58	屋台蔵	—	地藏堂の南50mほどの場所に位置する。切妻・棧瓦葺、外壁は板張り。前面の水路(堰溝)は暗渠化されてベンチが設置されている。					
		59	力石 (鈴の森神社)	不明	計 4 個。75×26×25 cm、77×26×20 cm、63×34×14 cm、70×31×21 cm。いずれも切付無し。愛宕社の脇に置かれている。					
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	60	秋祭り (田原)	—	田原地区の屋台 12 台(布団屋根型 10 台、神輿屋根型 2 台)・神輿 1 台が熊野神社に集まる。本宮では、各屋台が鳥居をくぐった後に拝殿前で差し上げを行い、境内を回った後、拝殿の裏を回り定位置に据えられる。屋台の宮入りが終わると境内中央の舞台上で浄舞、浦安の舞が奉納される。鈴の森神社の宵宮では、氏子の辻川と井ノ口の屋台が奉納され、両地区大綱の子ども相撲(花相撲)が行われる。					
		61	正月祭	—	1月1～3日に鈴の森神社、恵美酒神社、高藤稲荷で行われる。					
		62	トンド	—	鈴の森神社、高藤稲荷で行われる。1月13日又は14日に行っていたが、近年は1月の連休の日曜日に行われる。					
		63	初午	—	2月最初の午の日に高藤稲荷で行われる。子ども相撲が行われる。					
		64	歳灯	—	2月3日に鈴の森神社、高藤稲荷で行われる。節分祭(年越祭)。					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	65	夏えびす	—	辻川区の恵美酒神社では夏と冬の2回のえびすまつりが行われ、7月に行われるものを夏えびすという。					
		66	夏まつり	—	氏子である井ノ口区と一緒に7月第2日曜に鈴の森神社で行われる。					
		67	地藏祭	—	地藏堂で行われる。かつては8月22日、現在は8月23日に行われる。					
		68	冬えびす	—	辻川区の恵美酒神社では夏と冬の2回のえびすまつりが行われ、1月に行われるものを冬えびすという。					
遺跡	古墳・その他の墓	69	宮山遺跡	弥生時代	弥生時代の遺跡。靫跡が起る土器が見つかっており、弥生時代前期に稲作が伝わっていたことを示す。表面に連続渦文のある弥生土器が出土し地域間のつながりをうかがえる。甕棺(町指定文化財)が出土している。					
		散布地・集落跡・生産遺跡等	70	三木家住宅関連遺跡	近世	近世の集落跡。				
	71		西田原堂ノ前遺跡	奈良時代～中世	溝状遺構やピット(小さな穴)が確認され、字名が「堂ノ前」であることから、建物に関連する遺構とも考えられる。須恵器の杯や蓋、壺、甕、土師器など、奈良時代から中世にかけての遺物も出土し、長期にわたり遺跡が存在していたことが伺える。					
	72		上坂遺跡	弥生時代～近世	弥生時代から近世に至る集落遺跡。					
	73		下大明寺遺跡	弥生時代	弥生時代の遺物の散布地。弥生時代中期の甑と思われる土器や石鏃石錘などが出土している。					
	74		上大明寺遺跡	弥生時代	弥生時代中期後半の竪穴住居と掘立柱建物の遺構が確認され、竪穴住居の中からガラス玉などを出土している。					
	75	西広岡遺跡	中世	中世の遺物の散布地。						
古道・街道等	76	生野鉦山寮馬車道	明治9年(1876)	生野鉦山(朝来市)と飾磨津(姫路市)を結ぶ全長49kmの馬車道。鉦山物資等を運ぶための産業道路として、明治6年(1873)に計画し、明治9年(1876)に完成した。当時の道路構造を保つところは少ないが、現在も道路として使用され、当時の道筋を知ることができる。						

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき



分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
古道・街道等	77 生野街道（但馬道）	—	姫路から但馬へと通じる南北道。道標には「但馬道」と記されているものが多く確認されるため、江戸時代には「但馬道」と呼ばれていたことが分かる。						●		
	78 北条街道	—	三木から宍粟に通じる因幡街道の道筋上にあたる東西の主要街道。絵図や柳田國男の『故郷七十年』などから当時の様子を知ることができる。							●	
遺跡	79 元手造り醤油屋	—	辻川区の西部、生野鉦山寮馬車道（旧国道 312 号）から駒ヶ岩・市川へと至る路地に位置する。『故郷七十年』（「先祖になる」等）に出てくる伊藤家の方がされていた醤油屋。		●						
	80 元鈴の露酒店	—	1872 年創業。明治 39 年（1906）までは柳田國男生家の東隣にあったが、同年、現在地（明治期の角屋跡）に移転した。		●						
	81 角屋	—	明治期の角屋は、生野街道・生野鉦山寮馬車道（旧国道 312 号）と北条街道が交わる三叉路の北東に位置した（明治 39 年（1906）まで）。大正期に現在地に新たに角屋が開業した（明治期と経営者は異なる）。		●						
	その他の遺跡	82 ますや	—	柳田國男夫妻が帰郷の時に宿泊した宿（昭和 27 年）。大正中期まで松岡家の縁戚が経営していた旅館（枳屋）。人力車の中継所があり、國男や静雄、輝夫（映丘）は、人力車の背後に描かれている武者絵を見るために、毎日のように通い、これが輝夫が画家になったきっかけのひとつではないかと語っている（「東京の印象」）。		●					
		83 えびす屋旅館跡	—	『故郷七十年』（「母の長所」）に「辻川の家に向かいに「えびす屋」という宿屋があった。」と記載あり、國男の母が夫婦喧嘩の仲裁をしていたこと、また、松岡家はえびす屋にお風呂をもらいにいっていたこと（「母の思い出に一序にかえて」）などが記されている。		●					

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
遺跡 その他の遺跡	84	柳田國男生家跡	—	辻川山公園に移築されている柳田國男の生家が以前あった場所。生家の跡には「柳田國男生誕の地」の碑が建てられている。	●	●				
	85	旧神崎郡役所跡	—	明治19年(1886)に屋形から辻川に郡役所が移転し、これにより辻川の姿が大きく変わっていったと、國男は語っている(「辻川の変化」)。この時に建設された郡役所は、昭和57年(1982)に現在地に移築され、神崎郡歴史民俗資料館が開館した。			●			●
	86	法務局登記所跡	—	ジュズ玉が自生していたところ		●				●
	87	昌文小学校跡	—	昌文小学校は、松岡鼎が19歳で初代校長になり、柳田國男が学んだ学校である。何度も移転しているため、國男が通っていた当時の正確な場所は分かっていない。	●	●				
動物・植物・地質鉱物 植物	88	ヤマモモ(鈴の森神社)	—	辻川地区の鈴の森神社境内に位置し、樹高約13m、根元周囲約3.3mで、地上約60cmのあたりでほぼ東西へ分岐して2幹木となっている。町内最大の大木であるとともに、柳田國男と深いかかわりをもつことで知られている。 【町指定天然記念物】 【町指定保存樹】			●		●	
	89	藤の木	—	かつての大木は伐られて現存しないが、高藤稲荷西側の藤棚に子孫が残る。		●				
	90	大きなクスノキ	—	法務局登記所跡(元登記所の玄関)に位置するクスノキの巨木。		●				
	91	鈴の森神社古宮のエノキ	—	鈴の森神社の古宮と伝わる場所に位置する。 【町指定保存樹】			●			
名勝地 山岳	92	辻川山	—	辻川山にはかつて三木家により桃の木が植えられ、「桃山」とも呼ばれ、花見用のあずま屋もあったという。昭和初めころには、学校行事で、ウサギ追いも行われていた。大門富山・妙徳山・辻川山の3つの小山は、遠方からは3匹の獅子が横たわっているように見えることから、三獅子山と呼ばれる。			●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

辻 川

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
名勝地	河川	93	雲津川	—		●				
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	94	上井用水（堰溝）	—			●			
伝統的建造物群	歴史的な町並み等	95	辻川の町並み	—		●			●	
その他	信仰の場	96	鈴の森神社（境内社：恵美酒神社・愛宕神社）	—					●	
		97	有井堂	—					●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称		年代	概要	歴史文化ものがたり						
					①	②	③	④	⑤	⑥	
その他	信仰の場	98	地藏堂	—	かつての生野街道に面して建つ。この地藏は子どもを健康にし、頭の良い子にするといわれ、柳田國男の祖母小鶴が日詣りをし、柳田兄弟も連れられて詣っている。現在の堂は昭和26年(1951)築。赤穂浪士の大石内蔵助の妻りくが但馬へ里帰りする時に、この地藏堂で休憩したと伝えられている。				●		
		99	高藤稲荷	—	國男がよく遊んだ所で、稲荷信仰や狐研究を始めたもとなったとされる(「稲荷信仰のこと」)。高藤稲荷の森には、季節が来ると藤の花が咲き、「和やかな気持ちになった」と回想し、國男は帰郷の際に、よくこの場所を訪れていたという。現在の社殿は昭和5年(1930)築。				●		
	民間説話・地名・伝承地・屋号等	100	辻川の地名由来	—	東西を貫く北条～山崎の街道と飾磨～生野を結ぶ南北の街道とが交わる辻に位置することに由来するという。一説には、田原川と市川との合流地、川の辻の意ともいう。				●	●	
		101	古宮	—	駒ヶ岩から鈴ノ森明神が神馬に乗って飛んできたという伝説の地。井ノ口区所蔵の明治6年(1873)絵図で辻川山西側の赤く塗られた四角い部分が古宮と考えられる。				●		
新しい行事・芸能	102	辻川鬼太鼓	—	能面師佐治清氏から辻川区に55本の鬼面が寄贈されたことを記念して昭和62年(1987)に初披露された。辻川鬼太鼓保存会が組織され、伝統文化として継承しつつある。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・山桃忌に合わせて行っている「民俗学の夕べ」では、文化委員を中心に自治会、各種団体が協力して鈴の森神社境内にて辻川鬼太鼓や各種演芸、手づくり夜店及び手づくり「吊り灯籠」等の多彩な取組を実施しています。
- ・昭和 61 年（1986）から、辻川区やボランティアグループが協力して、辻川界隈の町並みや風物を一つの画廊に見立ててユニークな展示をして、スタンプラリー等をしながら辻川の町並み散策遊歩してもらう辻川界限展を開催しています。
- ・「辻川歴史研究会」が組織され、辻川界隈の歴史や文化の調査・研究に取り組んでいます。活動の成果は同会ホームページや『ぶらり辻川界隈－辻川お宝再発見めぐり－ガイドブック』などで発信されています。
- ・秋祭り実行委員会（青年団、祭典委員会、自治会等）が中心となって、文化遺産継承事業等を活用して老朽化した屋台の修理を実施し、安心安全に祭りが継承できるようにしています。
- ・「辻川界隈観光ボランティアガイド」（現在は解散）では、地域交流広場事業の一環として、新入生から上級生までの集団登校のグループを単位に、地域の歴史文化遺産を連れてまわり、住んでいるまちの魅力や歴史文化の大切さを伝える取組を実施してきました。
- ・令和 3 年度から辻川史編集委員会を組織し、地域史誌『辻川史』の編さんに取り組んでいます。
- ・昭和 52 年（1977）に、藤本煙津没後 50 年を記念して、井ノ口区と辻川区の有志により、藤本煙津顕彰碑を建立しました。正面には藤本煙津書の倉本櫟山の漢詩「遠川古縦」（つじかわこしょう）が刻まれています。
- ・昭和末期には、柳田國男生誕の地に角柱型の石標を建立しました。正面には「柳田國男生誕の地」、背面には「贈福富久泰」と記されています。



民俗学の夕べ



『ぶらり辻川界隈』



辻川界隈観光ボランティアガイド